

第166話

『インストラクショナルデザインと
テクノロジーの動向と課題(仮題)』

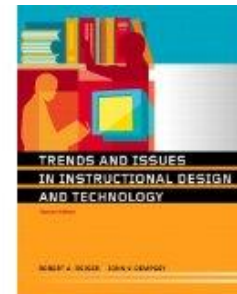
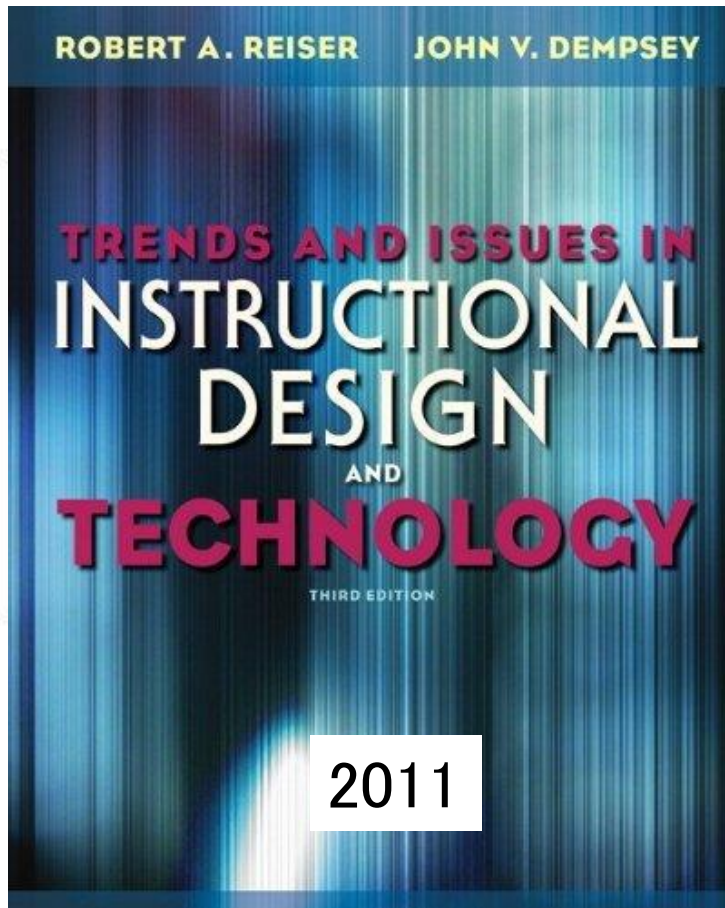
- 675+頁で全38章の大作が9月に出版されます。
 - 邦題はまだ**仮**で、価格は**未定**、鈴木・合田(監訳)で北大路書房から
- **原著**は第3版(2011)で高い評価を受けた教科書
 - Amazon.com: #56 in [Books](#) > [Education & Reference](#) > [Schools & Teaching](#) > [Computers & Technology](#) (昨日現在)
- **9部構成**([IDマガジン47号](#):ひげ講師の[ID活動日誌\(43\)](#)で紹介済み)
 - **第1部:領域を定義する**、**第2部:学習と教授の理論とモデル**、**第3部:教育プログラム・プロジェクトの評価と管理**、**第4部:パフォーマンスの向上**、**第5部:多様な場面での動向と課題**、**第6部:IDTの世界的動向と課題**、**第7部:IDTで職を得て成功するために**、**第8部:IDTにおける新しい方向性**、**第9部:IDTの現在における課題**

参考: [日本の教育工学の10分野](#)

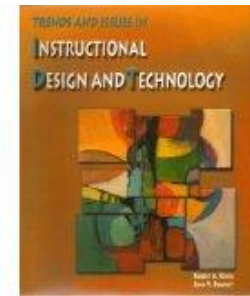
「インストラクショナルデザイン とテクノロジーの動向と課題(仮)」 (共監訳 2013年9月頃北大路書房)



Kumamoto University
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻



2006



2001

Robert Reiser & John V. Dempsey (Eds.)

「この人が書くべき人」と思
った人が次々に著者として
登場するテキスト(書評より)

2012年度米国教育コミュニケーション工学
会(AECT)設計・開発部会優秀書籍賞受賞

第1部：領域を定義する

第1章：あなたの専門領域は何って？領域を定義・命名する

ロバート・A・リーサー(フロリダ州立大学)

第2章：インストラクショナルデザインモデルの特徴

ロバート・M・ブランチ(ジョージア大学)

M・デービット・メルル(ユタ州立大学)

第3章：インストラクショナルデザインとテクノロジー(IDT)の歴史

ロバート・A・リーサー(フロリダ州立大学)

参考：[日本の教育工学の10分野](#)



第2部：学習と教授の理論とモデル

第4章：インストラクショナルデザインの心理学的基盤

マーシー・P・ドリスコル、フロリダ州立大学

第5章：構成主義：実践と歴史の文脈の中で

ブレント・G・ウィルソン（コロラド大学デンバー校）

第6章：学習科学：どこから来てインストラクショナルデザインに何をもたらすのか

クリストファー・ホードレイ（ニューヨーク大学）

ジェームズ・P・ヴァン・ハネハン（南アラバマ大学）

第7章：問題解決のためのデザイン

デビット・ジョナサン ミズーリ大学

第8章：脱工業社会の教授理論とテクノロジー

チャールズ・M・ライゲルース、インディアナ大学

第9章：学習意欲・意志とパフォーマンス

ジョン・M・ケラー フロリダ州立大学

マルクス・ダイマン フェルン大学(ハーゲン)



第3部：教育プログラム・プロジェクトの評価と管理

第10章：インストラクショナルデザインにおける評価：評価モデルの比較

R・バーク・ジョンソン 南アラバマ大学
ウォルター・ディック フロリダ州立大学

第11章：投資対効果(ROI)入門

ジャック・J・フィリップス ROIインスティテュート
パトリア・P・フィリップス ROIインスティテュート

第12章：設計チームをその場で、そして遠隔地から管理する

ブレンダ・C・リッチフィールド(南アラバマ大学)

第13章：研修組織における稀少リソースの管理

ジェームズ・J・ゴールドスミス アクセンチュア
リチャード・D・バスビー イリノイ州数理学アカデミー

第4部 パフォーマンスの向上

第14章:ヒューマンパフォーマンス向上(HPI)の発達と進化

ハロルド・D・ストルヴィッチ HASラーニング & パフォーマンスソリューションズ社

ボニー・ベレスフォード キャピタル アナリティクス社

第15章:パフォーマンス支援

フランク・グエン アメリカン・エクスプレス社

第16章:ナレッジマネジメントと学習:両方で完璧

マーク・J・ローゼンバーグ

(マーク・ローゼンバーグアンド&アソシエート)

第17章:インフォーマル学習

アリソン・ロセット サンディエゴ州立大学

ボブ・ホフマン サンディエゴ州立大学

第5部：多様な場面での動向と課題

第18章：経済産業界におけるインストラクショナルデザイン

モニカW.トレーシー ウェイン州立大学

ゲアリー R.モリソン オールド・ドミニオン大学

第19章：軍事教育・訓練環境におけるインストラクショナルデザインの機会

メアリー F.ブラットン=ジェフリー 米国海軍空中戦センター

アーサー B.ジェフリー キャンバー株式会社

第20章：保健医療教育におけるパフォーマンス・研修・テクノロジー

クレイグ・ロカティス 国立医学図書館



第6部:IDTの世界的動向と課題

第21章:初等中等教育におけるテクノロジー統合とインストラクショナルデザイナー

デボラ・L・ローサー メンフィス大学

スティーブン・M・ロス ジョンスホプキンス大学

第22章:3ヶ国の大学におけるデザイナーの5つの役割

ブレンダ・C・リッチフィールド J・V・デンプシー 南アラバマ大学、ピーター・アルビオン ジャッキー・マクドナルド 南クイーンズランド大学、根本淳子 熊本大学

第23章:世界を一つにするための複雑な課題に向かいあう学習の開発

ヤン・ヴィッサー 学習開発研究所

第24章:アジアにおけるIDT:日本と韓国に焦点を当てて

鈴木克明 熊本大学、鄭仁星 国際基督教大学

第25章:ヨーロッパにおけるインストラクショナルデザイン

フィル・グリーン オプティマム学習社

第7部:IDTで職を得て成功するために

第26章:インストラクショナルデザインの職を得るために:個人史からの教訓

ロバート・A・リーサー¹ フロリダ州立大学

第27章:経済産業界で職を得るために

ガブリエル・K・ガブリエリ ガブリエルコンサルティング

ロバート・K・ブランソン フロリダ州立大学

第28章:IDT関連学会と出版物

ジェームズ・D・クライン アリゾナ州立大学 - テンペ

ニック・ラッシュビー コネクションテクノロジー

ユヤン・スー フェニックス大学

第8部:IDTにおける新しい方向性

第29章:eラーニングとインストラクショナルデザイン

J・V・デンプシー 南アラバマ大学

リチャード・N・ヴァン エック 北ダコタ大学

第30章:学習オブジェクト

スーザン・スミス・ナッシュ 米国石油地質学者協会

第31章:ネットワーク・Web2.0とつながった学習者

テリー・アンダーソン アサバスカ大学

第32章:リッチメディアを賢く使う

ルース・コルビン・クラーク クラーク・トレーニング & コンサルティング、リチャード・E・メイヤー カルフォルニア大学

第33章:ゲームと学習?

ヴァレリー・J・シュート フロリダ州立大、ロイド・P・リーバー ジョージア大、リチャード・ファン・エック ノースダコタ大

第34章:仮想世界(バーチャルワールド)でデザインする

J・V・デンプシー、レベッカ・リーセ、ステイシア・ウェストン 南アラバマ大学

第9部:IDTの現在における課題

第35章:専門職の倫理:実践に適用されるルール

シャロン・E・スマルディノ 北イリノイ大学

J・アナ・ドナルドソン ウォールデン大学

メアリ・ヘリング 北アイオワ大学

第36章:多様性とアクセシビリティ

ジョエルP.ルイス 南アラバマ大学

ステファン M. サリバン 南アラバマ大学

第37章:変化するというデザインの本質

エリザベス・ボーリング インディアナ大学

ケノン・M・スミス インディアナ大学

第38章:討論:異なるレベルの教育的ガイダンスの利点

リチャード・E・クラーク 南カリフォルニア大学

マイケル・J・ハナフィン ジョージア大学





- **[047-02]【連載】ヒゲ講師のID活動日誌(43) ~いよいよ完成間近！~**
- いよいよ完成間近！
- 何がですって？ 翻訳本ですよ。何とかJSET全国大会@秋田大学には間に合うでしょう。でも出版社がブースを出せないと断っているの定価で買ってもらえないでしょうか。この話題に関連したポスター発表をして、そこで著者割引(2割引)で販売したらルール違反でしょうかねえ？ 怒られそうだからやめておきます。
- どんな本かの予告も兼ねて、全38章の目次を掲載します。乞うご期待！



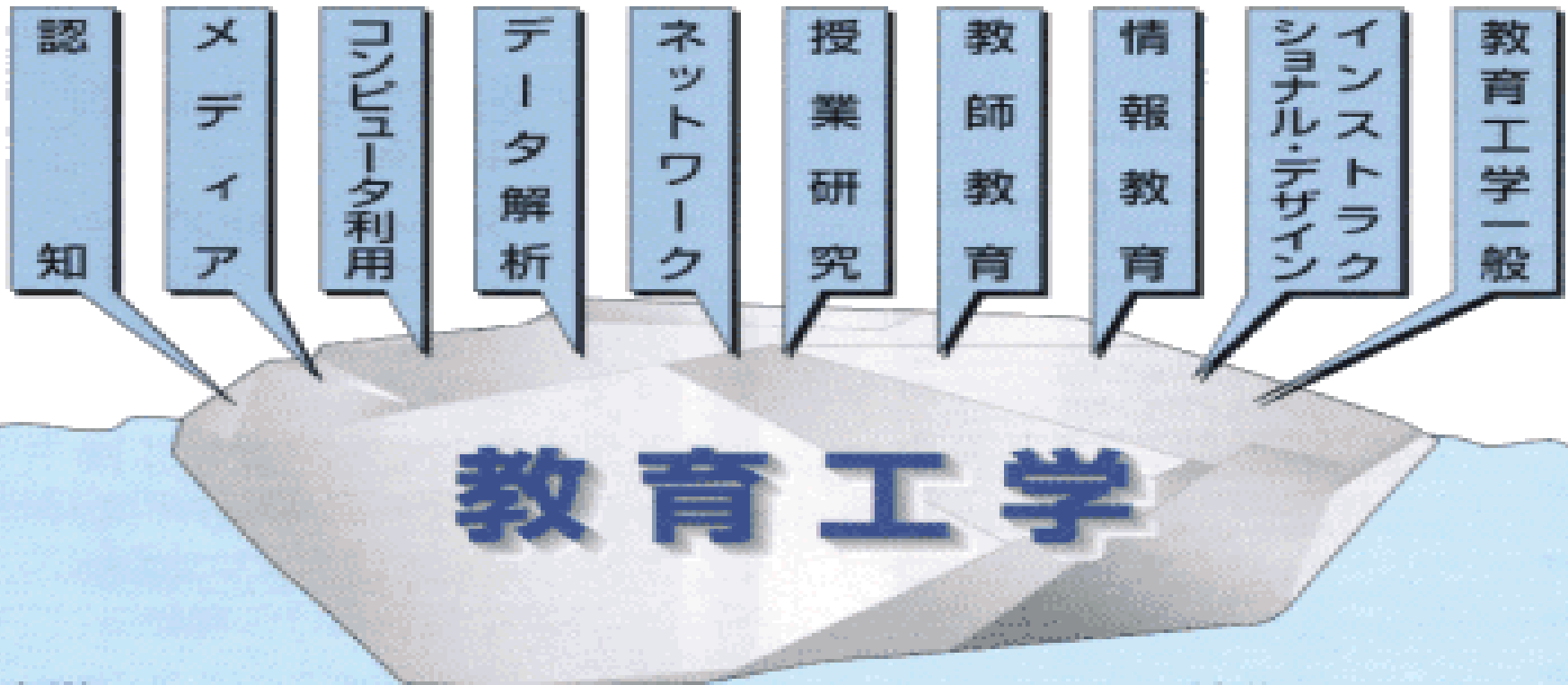
人文社会系と理工系、並びに人間に関する
学問分野を融合した学際的な学問

教育という領域の
工学という方法

教育工学の10分野

JSET 創立15周年記念出版 (教育工学事典 2000)

日本の教育工学
の関心の偏り



教育学
心理学
社会学

言語学
人間科学

生理学
統計学

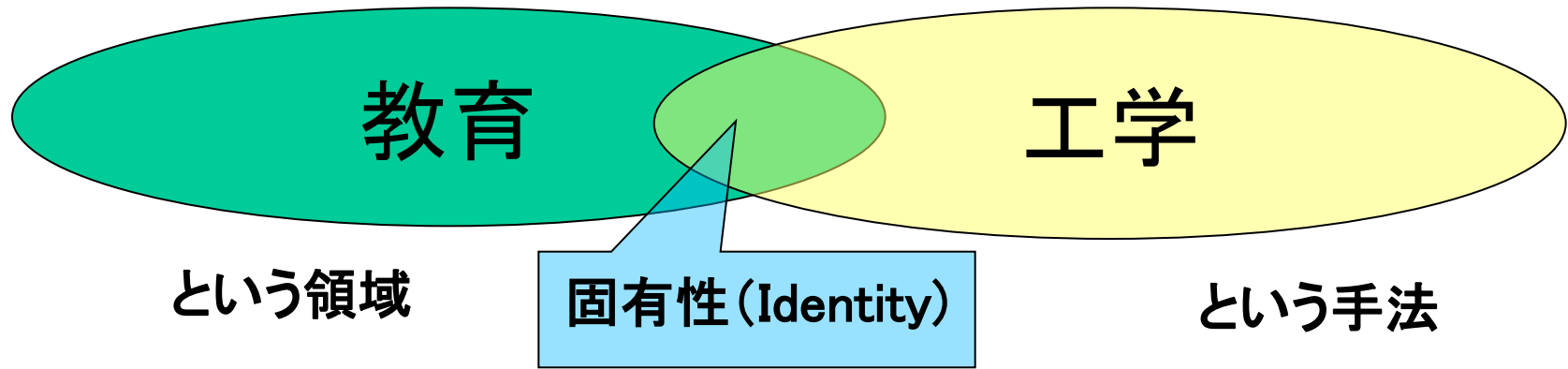
システム科学
情報工学
人間工学

電気電子工学
通信工学
制御工学



日本の教育工学
の関心の偏り

教育工学＝楽観主義＋折衷主義！ (鈴木 1995)



楽観主義：人を育てるためには必須の
研究態度＝決して諦めない

折衷主義：何でも使って問題を解決する
のが工学＝えり好みしない

我が国におけるこれまでの 教育工学の研究対象：関心の偏り

K-12 ICT

生涯学習

eラーニング

高等教育

企業内教育

モバイル/ユビキタス

インストラクショナルデザイン

これをやろう！